

## 第5章 地域の行動

### 第1節 環境市民会議の取組

地域の環境を保全し、回復させるには、市の環境施策を推進するとともに、市民・事業者の自発的な環境保全活動が不可欠となってきます。

ここでは、環境市民会議の皆さんが各地区においてそれぞれ調査した環境の現状と、一年間の活動や取組を報告します。

皆さんが住んでいる地区の身近な環境について、「知る、考える、行動する」きっかけとなれば幸いです。

#### 環境市民会議とは？

市内を6つの地区に分け、その地区の環境が良くなるよう自ら活動する団体です。

市内在住・在勤・在学の方であればどなたでも参加できます。

環境保全の取組は、一人ひとりの行動が最も重要ですが、その地区の取組の推進力となるのが環境市民会議となります。

地区内の町会・自治会や事業者、あるいは各種団体との連携を図りながら活動しています。

環境基本計画では、地区ごとにめざす環境の姿を定めるとともに、地区の環境の現況・課題を整理し、その解決に向けた主な取組などを「地域の行動」として示しています。

この地域の行動は、環境市民会議の皆さんによって策定されたものです。

#### 6地区の位置図



## 中央地区環境市民会議

### 中央地区環境市民会議が調べた環境の現状

明神町子安神社から中野山王子安神社まで歩いた「まちなかウォッチング」では住宅街の中で水路を見る事ができ、水の町・八王子を知る事ができました。また浅川のイベントではカジカを捕獲する事が多くなり、生息環境が良くなっている事が分かります。

市民センターまつりなどのイベントでは環境コーナーを設置して、中央地区の環境マップや浅川の魚・花の下敷を手渡して情報提供をしています。

環境クイズは「今年は満点を」と楽しみにしている方もおられ、継続により市民の方々に活動が浸透しつつある事を感じています。「正しい資源分別・身近な省エネ・ダンボールコンポスト」など市民の理解を得られるようにこれからも努力していきます。

## ■ 中央地区の主な取組

### 1. 地球温暖化防止のための省エネ生活の推進

4月の八王子市地球温暖化防止活動センター開設に伴い八王子市地球温暖化防止活動推進員の募集があり、中央地区から多くのメンバーが参加しています。家庭グループと調査・分析グループのリーダーを務め、新たな活動の展開を計画しました。省エネルギーセンターの「家庭の省エネエキスパート検定」の受験を薦めることで推進員のスキルアップを図り、八王子独自の省エネハンドブックを作成し市民に配布しました。

また、家庭の省エネ講座を開いて市民に自らできる省エネ行動を説明したほか、市民センターなどで市民に対し省エネ行動のアンケートの実施や、省エネ行動のアピールを行いました。

5月にはゴーヤの苗作りを実施し6月の環境フェスティバルでクイズの景品として配布しました。



ゴーヤの配布（環境フェスティバル）

### 2. ごみの分別徹底とリサイクルの推進

4月の春のみずき通りフェスティバル、7月の中野市民センター七夕まつり、10月の子安・台町・大和田市民センターまつり、11月のいちょう祭り、1月の西八ハイツ新春餅つき会に「環境コーナー」を設け、クイズを通して正しいごみの分別を説明し、クイズの景品として生ごみから作った堆肥を配布しました。

エコひろばでは「もったいない委員会」に参画し、「あったかホールまつり」や「こどもかんきょうまつり」などのイベントを支援しました。ダンボールコンポスト事業では八王子市生ごみリサイクルリーダーとして支援しました。



ごみの分別クイズの実施  
（春のみずき通りフェスティバル）

### 3. 河川の清掃活動

浅川の清掃は、1年に3回計画し、河川巡回観察で清掃場所を見定め、河川敷や水際を主体に活動します。28年度は天候不順などのため1回のみの実施でしたが、浅川でのイベント活動などの際に会場周辺の水際や橋の下などの河川敷の清掃を積極的に行いました。より良い水辺環境の保全のためにこれからも地道に努力していきます。

### 4. 河川の巡回観察・調査活動の推進

浅川の巡回観察を実施し、会員に内容を報告しました。

6月5日は身近な水環境の全国一斉調査に参加し、浅川大橋と鶴巻橋下の地点で水質調査を行いました。水質はきれいな水のレベルでした。

10月14日には川口川の浅川合流地の造成ワンドの水生生物と水質・湧水量調査および萩原橋下ワンドの湧水量調査を関係団体と行いました。川口川ワンドの湧水量は昨年とほぼ同じレベルで巡回観察からも年間を通して安定し、魚類も多く、新たにウキゴケが生えています。28年度から調査した萩原橋下ワンドの湧水量は多めでしたが、ワンドが水枯れするほど湧水量が減少することもありました。



ワンドの湧水量調査

### 5. 環境教育・環境学習などの推進

9月11日に自然体験講座「浅川ふしぎ探検」を実施し、親子合わせて90名が参加しました。水生生物捕獲・ボート遊びの他に新たに魚釣りも行い、親子で楽しいひとときを過ごされ、きれいな浅川でのよい思い出・安全面のしっかりしたサポートなどの感想をいただきました。

中央地区における小学校環境教育（7校）の支援活動（15回）に会員延べ81名がスタッフとして参加しました。

八王子浅川水辺の楽校運営協議会への協力は、6回のウグイ放流イベントにスタッフとして17名が参加しました。5月22日の桑都ライオンズクラブ「川で遊ぼう」はスタッフとして3名が参加しました。7月16日のガサガサ探検隊には11名が参加しました。9月10日の水辺の環境教室には1名が参加しました。9月17、18日のふるさと川まつりには8名が参加しました。



浅川ふしぎ探検



小学校環境教育支援活動 コオニヤンマの羽化観察

#### ■特色のある取組

1. まちのみどりの保全啓発を目的とした自然体験講座「まちなかウォッチング」を12月に開催し、地区内北部の街路樹や公園、湧水、水路などを観察しました。
2. 市役所前通りのアドプト活動に会員5名が毎回参加しました。（毎月第二土曜日。8月は休み）
3. 市内の街路樹を表したグリーンマップを環境フェスティバルや市民センターまつりなどで約2,000部配布し、まちのみどりの状況について周知しました。

### 北部地区環境市民会議が調べた環境の現状

北部地区の東地区は住宅地が開発されています。その中に、従来からの緑地が保存緑地として保存されている箇所もあります。西地区は南・北加住丘陵があり、豊かな緑が残っています。地域の中央を谷地川が流れ上流では従来からの自然護岸が残っています。一方、交通面では、国道16号、同バイパス、20号、滝山街道に加え、新滝山街道が開通し、中央高速道八王子ICの他に、圏央道あきる野ICが近くに建設され、交通の要衝となっています。このような状況の中で、以下の問題も顕在化してきており、多分野からの対応を求められています。

- ・ 谷地川上流部での水質・水量の改善
- ・ 加住丘陵などで、手入れが行われない樹林地の存在
- ・ 生活の場所から見えない場所でのごみの不法投棄
- ・ 環境保全活動が共通の認識になっておらず、温度差がある
- ・ 小・中学生が地域にある貴重な自然資源や文化、歴史を知る機会の少なさ
- ・ 地域内の幹線道路の多くの交通量による大気汚染悪化の懸念

### ■ 北部地区の主な取組

#### 1. 谷地川の調査と清掃活動

谷地川の7地点（6月のみ8地点）を対象に、COD（パルクテスト）、pH、電気伝導度、溶存酸素量を2か月ごとに、河川流量を季節ごとに定点観測し、生物調査を1回実施しています。全国一斉水質調査を6月5日に実施し、調査が開始されてから、全てに継続して参加しています。

9月4日に市共催の「川の清掃デー」に参加し、滝山2丁目町会と協働して谷地川の清掃を実施しました。小雨の中、早朝6時から約1時間、河川敷きのゴミを回収しました。



谷地川の清掃活動

#### 2. 緑地保全活動

北部地区の活動団体と一緒に、市内の公有地・市有地の緑地保全整備活動を実施し、市内に残る里山雑木林の保全に貢献しています。

対象とする緑地は、大谷緑地（活動回数：24回／年）、中野山王緑地（12回／年）、暁町緑地（12回／年）、大和田緑地（6回／年）、粟の須緑地（6回／年）、戸吹北緑地（30回／年）、滝山城跡（12回／年）です。中野山王緑地、粟の須緑地では市の公園アドプト制度で、きれいな竹林の保全に貢献しています。



竹林内の整備

#### 3. 環境教育・環境学習などの推進

小学生の自然体験は、楽しみながら自然を学ぶ場になっています。市内の他団体とともに、小宮

小学校4年生を対象にして、多摩川の自然を現地で学ぶ授業を支援しました。延べ4回で、環境教育として体系的なプログラムであり小学生には非常に有効です。最終的に活動の概要を示すパネルを作成しました。大和田小、第八小、緑ヶ丘小、渋谷区の代々木山谷小に対しては、里山林の意義、活用の仕方を学ぶ場として活動を実施しました。大学生に対しては、東京グリーンキャンパスプログラムとして、首都大学東京の学生約20人に対して年2回、また、企業を対象にして、東京グリーンシップアクションとして、5社に対して緑地整備の体験を通して環境問題、緑の保全の重要性を理解してもらうプログラムを実施しました。

#### 4. 大気汚染測定

地区内の幹線道路、その他の道路、道路に面さない場所を対象に調査を実施しました。調査地点数は、36か所の定点調査で、年2回（6月、12月）実施しています。今年度は新規入会会員も参加し、測定点数が増加しました。全般的に二酸化窒素濃度（NO<sub>2</sub>）は減少傾向にありますが、地区を通る16号バイパスでやや高い濃度が観測されます。

#### 5. 地区の環境マップ作成

現在使用している環境マップの更新を目指し、巨樹、遺構等の調査を進めています。現環境マップは各種イベントで配布し、北部地区を知ってもらうために活用しています。

### ■ 特色のある取組

#### 1. 八王子環境フェスティバルへの参加

環境フェスティバルに参加し、地区を紹介するパネルの展示や、谷地川で捕獲したホトケドジョウ・ウグイ・ヤゴ・エビなどを水槽に展示し、子ども達に人気でした。来場者には、地域で咲いた草花の押し花を入れたしおりをパウチで作成し配布しました。自分で文字を書き入れたりして楽しんでもらいました。



押し花を入れたしおりを作成

#### 2. 環境パネル展への参加

市主催のパネル展に協力しました。（9月）

#### 3. 自然体験講座の実施

11月に計画した「滝山城址の自然と歴史を知る講座」は「滝山自然と歴史を守る会」の協力の下、新たにできたARアプリで当時の風景を見せる映像の利用と、甲冑を付けた説明で好評の中で終了しました。参加者11名、スタッフ9名で和気あいあいの自然観察になりました。また、「滝山城址と高月地区の田園地域を散策」し、風景と自然を感じる3月の講座は降雨のため中止しました。翌日以降、参加できなかった方から実施の要望がありましたが、日程の調整ができず、残念ながら来年度の参加をお願いしました。



アプリで当時の様子を観察

#### 4. 市民センターまつりへの参加

私たちの活動状況を地元の方に見ていただくために、加住・石川の両市民センターのセンターまつりに活動内容を説明するパネルを展示しました。特に、石川市民センターでは「谷地川」をテーマとしており、住民協会長からの協力依頼もあり、水槽で水生生物を展示し、活動状況のパネル展示・紹介を行い、環境マップや市民会議勧誘のチラシも関心を引きました。



石川市民センターまつり

### 西部地区環境市民会議が調べた環境の現状

西部地区は八王子市の西に位置し緑豊かな自然に恵まれ、多様な生態系が形成されています。このような環境の中で浅川の源流でもある案下川をはじめ醍醐川、小津川、川口川、大沢川や城山川では、保水力や浸透性が低下したためか水量の減少や瀬切れがますます目立つようになっていきます。

また、外来植物は毎年駆除を進めていますが繁茂しており景観を損なうばかりか、恰好のゴミ捨て場にもなっています。当地区では年数回のクリーン活動に併せ、外来植物の駆除も行っていますが限界があり、特に河岸で成長した大きな草木の処理は市の力も必要としています。

27年4月に開校した、都、市と企業の協同による「高尾の森自然学校」では、「人と自然、自然環境と地域社会の共存・共栄から学ぶ」の基本理念のもと、野鳥観察会や森林ボランティア体験などを通して環境の大切さと有難さを学ぶ事ができます。

大気汚染測定は、29年度から地域20か所で再開する準備を行っています。

## ■ 西部地区の主な取組

### 1. 大沢川・城山川クリーン活動

城山川と大沢川には側道が整備され遊歩道や通学路としても利用されています。この川へのごみ投棄は相変わらず多く、年4回ごみ収集のクリーン活動を行っています。

ごみはボランティア袋で毎回10袋以上を収集しています。ごみ問題に対する住民の意識向上のため近隣小学生作成の『ポイ捨て禁止』ポスターを川のフェンスに掲示しているほか、環境レポートを発行し地域に回覧して、ごみ捨て禁止活動をしています。



クリーン活動の様子

### 2. 特定外来植物の駆除

城山川と大沢川に見られる特定外来植物アレチウリ、要注意外来植物のオオブタクサ、クイモ、セイタカアワダチソウ、キショウブ等の苺込駆除を年4回、川のクリーン活動に併せて実施しています。さらにアレチウリについては種の実る前の9～10月に重点的に苺込を行います。また多年草のギンギンについては2～3月に根から切り取るようにしています。

### 3. 河川・湧水の水質調査

年2回の調査のうち6月は水とみどりの研究会主催の「水環境の全国一斉調査」に加わり、地区の大沢川や城山川などで13地点の水質調査を継続して行っています。特に大沢川の村長橋付近は瀬切れが長期間にわたって生じています。



水質調査の様子

湧水の調査は6か所で実施しています。COD値は良好に推移しているものの水量は毎年減量しつつあり、28年度は高水温のためか水草の繁殖が多くみられました。また、27年度より歴史のある川口町十二社弁天池湧水を調査に加えましたが、土砂流入の形跡があり水量は僅かでした。

#### 4. 環境教育支援事業の実施

##### (1) 環境教育支援

小学校の「川の生き物調べ」では採集した川の生き物に接して、自然体験を楽しみながら学ぶ場となっています。

28年度、西部地区における小学校教育支援校は5校、川口小と元八王子東小で各2回、元八王子小、恩方第二小、陶鎔小では各1回ずつの支援活動を行いました。スタッフとして延べ44名が支援し、児童の保護者の皆様の協力を得て共に学びました。

##### (2) 式分方小学校のダンボールコンポスト支援

近年八王子市では、可燃ごみの半分を占める生ごみをいかに減量させていくかが課題となっています。西部地区にある式分方小学校において25年度よりダンボールコンポストを利用して、生ごみの減量・資源化の取り組みを推進しています。

環境教育対象の4年生が挑戦し、ごみに対する意識を向上させるための学習を実施しています。28年度に参加した児童は78名、用意したコンポスト14個、生ごみの投入後約1ヶ月で減らした生ごみは100kgにもなりました。実施にあたり学校関係者、児童保護者、不足の生ごみを用意くださった給食担当者の協力が有難いです。当市民会議も積極的に協力を継続しています。



ダンボールコンポスト支援の様子

#### ■特色ある活動

##### (1) 自然体験講座の実施

当西部地区内には寺社仏閣や史跡も多く、豊かな自然環境にも恵まれています。これらを春と秋の2回、市民と共に見て回る体験講座を実施しています。

5月には「八王子城の城下町をあるく」、11月には「紅葉の檜原をあるく」を行い、沢山のご参加をいただきました。



自然体験講座の様子

##### (2) 地域への啓蒙活動

啓蒙活動の一貫として年2回「環境レポート」を発行し主に元八地区町会に配付しています。また、元八王子事務所の「地域の力 市民の力」コーナーの一部を借りて環境保全写真パネルを常時展示し活動内容を報告しています。

### 西南部地区環境市民会議が調べた環境の現状

西南部地区は高尾山を中心に豊かなみどり、多様な生き物、史跡など首都圏有数の環境を有し、自然体験講座を5回開催、季節・地域の宝やその保全状況、変化など体感して頂きました。

麓の八王子南バイパス道路の建設現場では希少植物の保護に続き、龍見寺裏山で新たに発掘された古代遺跡は柵田遺跡との関連が垣間みられ、又、隣接する館町緑地保全地区では里山保全活動と共に、数年前より他団体と積極交流により、谷戸の田んぼの復活が果たされています。

南浅川では小学校支援活動、近隣4町会と川の子供自然体験、市制100周年プレイベント（ふるさと川まつり）、湯殿川の清掃、河川の流況調査など「川の取り持つ交流」が多くありました。

いちようまつりのごみ分別指導など継続活動の他に、今年度は高尾山樹木調査や川の流況調査など区切りのまとめを行い当会内及び外部協力機関へも報告、相互協力重視で取り組みました。

### ■ 西南部地区の主な取組

#### 1. 高尾山の環境保全活動

高尾山観察会（植物、動物）と環境パトロール（登山道、建造物、構築物）を（6. 9. 12. 3月）同時実施しました。案内板設置要望（3か所）は1か所修正され、今後も案内の在り方には継続検討していきます。過去11年間継続記録した指標樹木調査を纏めて、経年変化、問題点の報告に東京都多摩環境事務所に2名で訪問しました。

#### 2. 地域の宝の掘り起こし

10月9日のウォーキングにて南浅川周辺の15か所（千体地蔵、廿里古戦場、日光神社他）を巡る文化探索をエコひろばと共催で開催しました。応募者12名、会員9名の総勢21名が参加しました。29年3月19日には野鳥観察会を八王子・日野カワセミ会の支援を得て南浅川両界橋周辺の新コースで開催し、カワガラスをはじめ、他18種の野鳥が観察でき満足な結果となりました。一般参加者26名を含む、総勢59名が参加しました。



（3月南浅川での野鳥観察会風景）

#### 3. 里山の保全活動

4月3日に駒木野の野草を守る会と連携で野草観察会を開催し、応募者16名、総勢29名が参加しました。6月26日は池の沢に蛍を増やす会との連携で蛍観察会を開催し、42名が参加しました。8月7日は自然体験講座「里山探検隊」を開催し、21名（子ども12名、大人9名）が参加しました。10月22日は東京グリーンシップアクション（あずさ監査法人）を支援し、応募参加者56名（子ども14名、大人42名）の総勢79名が参加しました。



（8月 里山探検隊 館町緑地保全地区）

里山について分担して調査・記録書を検討（50か所）し、選考場所を調査中です。

#### 4. 親しみのある水辺環境の構築

##### （1）流域の水質調査

6月5日の全国一斉水質調査は地区内8河川の21か所におけるCODを測定しました。その結果、全般的に高い値を示しました。とくに穎明館高校調整池出口の測定値は採水地点の水量が



少ないため、高い値を示しました。したがって、29年度から水量の多い地点の殿入川の池の沢橋下に変更することとしました。

## (2) 水辺のすこやかさ調査及び川の清掃活動

5月15日の水辺のすこやかさ調査と湯殿川の清掃活動を参加者は19名で行いました。水辺のすこやかさ調査は定点調査を行いました。川の清掃は湯殿川の所定の区間（田中橋～和合橋上流）の川底・川岸・遊歩道の清掃を行いました。収集したごみは自転車と布団、ボランティア袋12袋でした。同時に、新関橋付近の外来植物（10種）および生き物調査を行いました。結果は東京都南多摩西部建設事務所及び館清掃事業所に報告書として提出しました。

## 5. 環境パトロール

### (1) 不法投棄パトロール

29年3月13日に殿入中央公園周辺の不法投棄パトロールを12名で行いました。調査結果、ごみは道路から見えない場所に捨てられていることが判りました。収集したごみはボランティア袋大10袋（内訳は可燃物8袋、不燃物1袋、カン1袋）と危険物2個、大型ごみ（タイヤ含む）4個、プラスチックの柵5個でした。結果は館清掃事業所に報告書として提出すると



（不法投棄の収集ごみと活動メンバー）

ともに、話し合いにより不法投棄防止の警告看板の設置が決まりました。

### (2) 大気汚染測定（NO<sub>2</sub>）

大気汚染調査（NO<sub>2</sub>）は6月と12月地区内の幹線道路など32か所の測定を行いました。

とくに、高尾消防署交差点周辺に大型店舗の開店が予定されており、周辺の交通渋滞の激化に伴うNO<sub>2</sub>濃度の変化が予想されることから周辺に4か所の測定地点を追加し測定しました。

その結果、4か所の測定地点とも、6月0.03、12月0.04の高い値でした。

## ■特色のある取組

### 1. 市立学校環境教育支援

西南部地区内の小学校5校で行い、同一校で2学年支援した学校は、浅川小（3年生と4年生及び東浅川小（4年生と5年生）の2校です。各学校周辺の自然に触れ合うための総合学習として、近くの河川、丘陵に行き、城跡の歴史、自然環境の基本調査や生き物調べ、川のきれいさなどの自分たちの課題を見つけて、体験学習の支援を行いました。（5校7学年、26回 支援者延数154名）

### 2. 地域（東浅川地区町会）及び親子川辺の自然体験

7月31日の地域（東浅川地区町会）の自然体験「子どもの自然体験」は川の生きもの探検と観察の支援を行いました。参加者は子ども45名、大人35名、当会9名でした。8月6日の親子川辺の自然体験「わたしのまちの水辺調査」は、北浅川の生き物調査、パックテスト、透視度試験を行いました。参加者は子ども21名、大人21名、主催者5名、当会8名でした。また、両支援活動とも当会のパネル9枚を展示し、同時に「水の汚れと浄化」の説明を行いました。

### 3. 第37回 八王子いちょう祭りの環境支援活動

11月19、20日に開催し、初日の雨にも関わらず49万人が来場しました。事業者（株式会社完山金属）の協力を得て、高校生（桑志高校、富士森高校）や学生（国際ボランティア学生協会）など総勢320名余りにごみ分別指導を行いました。可燃ごみは4t弱と減少し、ごみ分別意識の向上とクリーンな祭りの実現に協力しました。

**東南部地区環境市民会議が調べた環境の現状 「ふるさとの八王子を美しい街に！」**

東南部地区のみどりは、周辺地域の小規模開発により減少しています。一方、手入れの行き届かない里山も見受けられます。

河川の状況は、浅川、湯殿川、兵衛川、山田川、寺田川の14地点の水質調査を行っています。COD値はきれいという基準値の1~2のところが多いものの、ごみのポイ捨てがまだ見られますので、一層の清掃活動と啓発活動が続ける必要があります。

年2回の6駅周辺のごみを種類ごとに数えることにより「きれいさ評価」を行っています。たばこの吸い殻のポイ捨ては気になるものの、たばこの吸い殻を含めたごみ全体としては非常に減少しており、街全体としては年々非常にきれいになっています。

大気汚染の状況は東京一斉NO<sub>2</sub>測定に年2回参加し、継続して測定していますが、16号バイパスでは通行料金無料化に伴い通行車両が増加しており、数値が悪くなっているため、今後とも注目していく必要があります。

地域とのつながりを大切にして街の美化、河川の美化に努め、美しい街にしていきたいと思えます。

■ 東南部地区の主な取組

1. 市民センターまつりへの出展

当地域では10月に由井市民センターまつり、11月に北野市民センターまつりと由井市民センターみなみ野分館まつりが実施され、6駅周辺の道路のごみの状況を半年ごとに調査した状況を「きれいさ評価」としてまとめたもの、河川の水質の状況、東南部地域の散策用に作成したハイキングマップや街路樹マップをパネルで展示し啓発活動を行いました。

2. 自然エネルギーや節電・省エネの出前講座

8月にエコひろばで自然エネルギーの座学とソーラークッキングの実験を行い、再生エネルギーへの関心を高めるとともに、小学生と付き添いの保護者に実際にできた焼き芋を食べて太陽エネルギーの力を実感してもらいました。

3. 東南部駅周辺のきれいさ評価や北野駅周辺の清掃活動

年2回区域内の6駅周辺の「きれいさ評価」を行っています。依然としてたばこの吸い殻のポイ捨てが見られるものの、市、町会・自治会、事業者、学校、各種団体、個人ボランティアなどの美化に対する思いが効果を表して、落ちているごみは非常に少なくなり街全体としては年々非常にきれいになっています。12月には市と北野町会、打越町会との協働で北野駅前喫煙マナーアップキャンペーンを行い、チラシとティッシュペーパーを配



「きれいさ評価」のためのごみ調べ

ってたばこのポイ捨てをしないよう呼びかけました。毎月の活動として北野駅周辺と湯殿川下田橋周辺のごみ拾いをして街の美化と啓発に努めました。



喫煙マナーアップキャンペーン

#### 4. 河川の水質調査と清掃

6月の全国一斉調査で、浅川、湯殿川、兵衛川、山田川、寺田川の14地点の水質調査を行い、12月には同じ地区で独自の水質調査を行いました。COD値はきれいという基準値の1~2のところが多いものの、ごみのポイ捨てがまだ見られるので、一層の清掃と啓発活動を続ける必要があります。

河川の清掃は4月に浅川流域市民フォーラム、都、市、長沼町会と合同で浅川の清掃を行いました。参加人員は長沼町会の20名、一般参加の6名を含む45名でした。7月と11月には湯殿川の清掃を都と市の支援を受けて計画し流域町会にチラシで呼びかけて実施しました。

#### 5. 地域の自然・歴史の調査と勉強会と自然体験講座

自然体験講座は7月と10月の2回行いました。7月の「イカダで川下りと生き物観察」には親子16組が参加し、親子で会話を楽しみながら竹を縛って浮き輪を付けてイカダを作り、川へ持ち込んでイカダに乗って川下りをするとともに、ライフジャケットのまま川下りをして川の楽しさを親子で体験してもらいました。参加した方々からは川の水がきれいだということ、川にいろいろな生き物が多くいるということ、自然と遊ぶことができてすばらしかったという感想をいただきました。



イカダで川下り

10月の自然体験講座は「わが町、長沼周辺 歴史と自然を訪ねて」を行い42名が参加しました。北野駅を出発し北野にあったレンガ工場で作ったレンガが残る由井小学校の門柱を見て、その



自然体験講座「歴史と自然を訪ねて」

レンガ工場跡から両田橋がいつの間にか西田橋に変わってしまった西田橋を通り六社宮へ行きました。そして長沼公園に入り霧降りの道を登って頂上へ着き展望を楽しみながら休憩の後、南陽台方面に下りて古道「小野路街道」、野猿峠から雷松、そして再び六社宮へ。境内にある長沼町会会館で昼食休憩後、水車跡、八剣社跡を通過して北野駅で解散する道程でのんびりと1日を過ごしました。自然と歴史に触れる1日でした。

## 東 部 地 区 環 境 市 民 会 議

### 東部地区環境市民会議が調べた環境の現状

東部（旧・由木村）地区の北側は多摩丘陵が東西に走り、また、南側は多摩ニュータウンとして、地域の特色としてのみどりの景観を、それぞれ形成しています。

この地区は、空気や水の供給源であるみどり連なる多摩丘陵の里山を維持することで、人の生活と多様な生きものが生きていくことができる環境として守られています。

古くは、昭和57年に「南陽台の自然を守る会（現：多摩丘陵の自然を守る会）」が発足し、以来30年余にわたり、多くの住民の努力によって多摩ニュータウン・由木の里山保全活動が続けられてきました。

今では別所地区の面積19.8haの『長池公園』、堀之内地区の面積5.2haの『堀之内寺沢里山公園』が整備され、隣接の東山地区も、みどりの保全を重視した緑地に囲まれた住宅地域になっています。

さらに、堀之内の里山について、都の自然保護条例による里山保全地域に指定された『宮嶽谷戸』のみどりの保全活動も進めています。

## ■ 東部地区の主な取組

### 1. 里山保全活動の推進

長池公園や寺沢里山公園、堀之内里山保全地域などで、里山・谷戸の保全活動を実施しています。長池公園では「長池里山クラブ」が活動主体になり、毎月第2土曜日を中心に、スタッフによる保全活動と活動の事前準備を行っています。28年度の初回は4月に行い、70名近い人が参加しました。主な活動は、4月「炭焼き」、6月「田植え」、10月「稲刈り」、12月「収穫祭」での「餅つき」で、正月には“どんど焼き”を行い、2月「炭焼き」、そして、3月「椎茸の駒打ち」で年間行事を終了しました。

八王子堀之内里山保全地域では、主に堀之内里山管理協議会（「里山農業クラブ」、「ユギ里山保全チーム」、「多摩丘陵の自然を守る会」で構成）が、耕作を放棄されて荒廃した「谷戸源頭部」のアズマネザサやアオナリヒラタケの伐採を行い里山の保全整備を推進しています。多摩丘陵の自然を知ってもらうため、毎年2回、「自然体験講座」として、春は4月に中山・鎌水地区、秋は10月に寺沢・堀之内方面で、樹木や草花を学習しながら歩く自然観察会を実施しました。また、由木地区自然観察路マップを多摩丘陵の自然を守る会と共同して作成・改訂維持し、同様に由木地区樹木マップも作成・改訂維持しています。



春の自然体験講座

### 2. 花壇の維持・管理

南大沢駅前のペDESTリアンデッキに設置してある大型花壇22基の維持・管理を実施しています。南大沢駅前の花壇管理は、市の道路アドプト活動として、『南大沢みどりのサポーターの会』が主体で、毎月2回実施しています。駅前の企業が新規会員として参加しました。また、道路交通部に活動看板を設置してもらうとともに会員募集を行いました。

6月は「夏苗」の植付けを行い、7月中旬から8月一杯は苗の植え込みと、水やりサポーターの会と毎週交替で“夏の水やり”を実施しました。

秋恒例の『南大沢市民センターまつり』には、コンテナガーデンコンテストに参加しました。

### 3. 環境教育支援事業の推進

環境学習支援活動として、地区内の小・中学校で、環境教育の支援を実施しています。

由木東小学校では、4年生（100名）を対象に、6月と10月に浅川・ふれあい橋付近および10月に大栗川の番場橋付近、沖の谷戸公園で川の学習支援を行い、12月には講堂で発表会を行いました。また、柏木小学校5年生（58名）には9月、松が谷小学校5年生（48名）には10月と、それぞれ浅川のふれあい橋付近で川の学習支援を行いました。



川の学習発表会

28年度から新たな取り組みとして、4月～12月第三火曜日午後に秋葉台小学校5年生、計76名へ対して、『稲の文化にふれよう』（40時間）体験学習支援を長池里山クラブが実施しました。

また、ダンボールコンポストによる生ごみ資源化校内活用支援事業として、宮上小学校5年生（48名）に9月～10月に計6回実施しました。

### 4. 大気汚染測定と水質調査

大気汚染の調査と河川の水質調査は、毎年、関係団体と協働してそれぞれ実施しています。大気汚染の調査は、毎年6月と12月に行われる「大気汚染測定運動東京連絡会」の主催する全都一斉測定に参加し、25か所で実施しました。

河川の水質調査は、6月の年1回の「全国一斉水質調査」に、「浅川流域市民フォーラム」と連携して行っており、大栗川3か所、大田川2か所、大栗川支流5か所の計10か所で測定しました。（各測定結果は、「環境白書」データ集に掲載）

### 5. 環境関連団体との交流

「多摩丘陵里山連絡会」との連携を引き続きとるとともに、環境保全で活躍する各種活動団体と情報交換をし、活動支援を行っています。「多摩丘陵の自然を守る会」、「寺沢里山楽友会」のほか、「里山農業クラブ」、「NPO法人 YUGI」、「トウキョウサンショウウオを守る由木の会」、「鑑水“蛍の里”」、「小山内裏公園の会」などと連絡協調しています。都の自然保護条例による「堀之内里山保全地域」の里山保全管理活動に関しては、環境保全課からの要請に基づき、「多摩丘陵の自然を守る会」ほか地元の堀之内の各組織も協力しています。28年度より新たに、西緑地科学クラブと連携し、子どもたちに里山の竹による凧作りを体験してもらう活動を実施しました。



里山の竹による凧作り体験

### 6. 情報発信

由木地区環境市民会議のウェブサイトを開設し、自然観察会で観察された植物種の写真を閲覧可能にすると共に、「はちコミねっと」にも会の情報を掲載しています。由木地区自然観察路マップおよび由木地区樹木マップについても上記ウェブサイトに掲載し、これらの地図の情報をダウンロードしてスマートフォンなどにより野外で自然観察路のルートへの案内などができるようにしています。

## 地域の行動評価一覧

28年度における環境市民会議各地区の活動実績に基づき、その地区の活動実績をその地区で総括的に評価したものと、その評価に対して環境推進会議で相互に評価したものを掲載しています。

### ＜中央地区環境市民会議での総括評価＞

計画に沿った活動を行えた。今まで、環境啓発として様々なイベントを行って来たが、環境フェスティバルでのゴーヤ苗など配布に使用する袋が、レジ袋削減運動と矛盾する疑問から、この1年間定例会を利用しての会員同士の勉強会を行った。その結果、紙パック（牛乳・酒など）の再利用を試行することとなった。地域の方々に見える啓発イベントは、積み重ねがあつてこそ、そこから先を広げられるものだと思う。また、川の環境保全状況を把握するため水量調査地点を増やした。温暖化防止の啓発活動およびまちなかウォッチングは大切な啓発活動である。

様々な活動形態の会員が多い中、各部会の中で協力しあつて中央地区としての啓発活動を継続・拡大していきたい。

### ＜環境推進会議での相互評価＞

年間を通し市民センターまつりやイベントに積極的に参加し、地元に着し親しみやすい活動を展開している。また、その際の配布袋に紙パックを使用するなど新たな活動も展開していることは、高く評価できる。浅川での活動や環境教育支援、「クールセンター八王子」に協力している温暖化防止活動など、多岐にわたる活動を行っている。引き続き活発な活動を進めていただきたい。

### ＜北部地区環境市民会議での総括評価＞

緑地保全活動については、地域にある団体「八大緑遊会」「滝山城跡群・自然と歴史を守る会」と協働で継続的に実施している。緑地を保全・更新させる活動は、内容・頻度も十分と考える。

昨年に引き続き、谷地川の清掃活動に参加し、町会の方々と一緒に行った。谷地川の水質と生息生物の調査を定期的に行い、データの蓄積を行うことができた。水量調査も併せて実施した。

環境教育支援・環境学習支援では、地域にある自然資源を利用して実施した。小宮小学校の環境教育支援では、多摩川を対象にした観察を実施し、調べた結果を元に、さらに図書やITを使って自ら調べる手助けを行った。また、市内外の小学校の生徒に、保全活動を継続している里山林をフィールドとして、緑地整備や、緑地の利用を体験する活動を実施した。

地区の環境マップは、環境フェスティバル、環境パネル展や自然体験講座などの活動の中で配布を行い、北部地区の自然環境を紹介することができた。

大気汚染調査は継続して年2回の定点観測を行い、データの蓄積を行うことができた。

加住および石川市民センターでの「センターまつり」に参加した。石川市民センターでは「谷地川」をテーマとしており、住民協会長からの協力依頼もあり、水槽で水生生物を展示し、活動状況のパネル展示・紹介を行い、環境マップや市民会議勧誘のチラシも関心を引いた。

北部地区は自然に恵まれた加住丘陵と歴史のある滝山城址や都市の中に点在する多くの緑地、地域を貫流する谷地川を有している。これらを保存し、活用した活動を行うことができた。

#### ＜環境推進会議での相互評価＞

地域の団体と協働した緑地保全活動を継続的に行い、企業、学生の緑地保全活動の支援や小学生への緑地整備体験の実施など、市内に残る里山林の保全活動の啓発及び活用に対する貢献度はとても高い。また地区内の谷地川での継続的な水質調査に加え、水量調査、生物調査を行い、河川の保全にも努めている。地区の環境マップの更新を計画されているが、加住丘陵や滝山城址など市の魅力を発信することにもつながるため、是非充実させ環境資源を広げてもらいたい。

#### ＜西部地区環境市民会議での総括評価＞

計画通りに実施ができた。今後も会員の協力をいただいて、地区の取り組みを進めて行きたいと考える。

#### ＜環境推進会議での相互評価＞

特定外来植物の刈込駆除は、生態系の保全という観点からも高く評価できる。ダンボールコンポストを活用した学習授業支援や西部地区や他の地区での環境教育支援に積極的に取り組んでいる。また、河川の水質調査や湧水調査をはじめ、大沢川や城山川のクリーン活動などの清掃活動を継続し、その実績を「環境レポート」として年2回地元町会などへ情報発信していることは、地域に向けた環境保全活動として高く評価できる。今後は地域と協力して活動を拡大してもらいたい。

#### ＜西南部地区環境市民会議での総括評価＞

高尾山の環境保全活動は案内板の設置及び11年間の樹木観察結果の評価を行政へ要望した。今後も活動の中で明らかになった課題は行政と協働で解決にあたる。

親しみのある水辺環境の構築は水辺体験講座を2回行った。水もきれいになり、親しみのある水辺環境の構築も現実味を増してきた。清掃活動はそれ自体が大きなPRであり、今後も継続する。

里山の保全活動の小仏の野草観察会は自分たちの保護地での開催であり、自然保護の重要性が明確にわかるものだった。

環境パトロールは不法投棄として大量、あるいは業務用と悪質なものが目立つ。増罰など、何らかの対策が必要である。

地区の宝の掘り起しは地元でも宝の知らない人が多い。エコミュージアムマップ、自然体験講座は大変好評である。

環境教育支援は5校7学級26回、支援者は延べ154名であった。子どもの環境とのかかわりは重要であり、当会、最大の活動となった。

#### ＜環境推進会議での相互評価＞

高尾山で継続して実施している環境保全活動や水辺を使った体験講座、環境パトロール、地区内の自然や史跡などを紹介する地区の宝の掘り起し、小学校への環境教育支援など、地区の環境保全や環境意識の向上につながっていると高く評価できる。新たにふるさと川まつりへの参加をしたことやいちょう祭りで行っているごみ分別指導などの活動は地域貢献に大きな成果をあげている。29年度に開催される全国都市緑化はちおうじフェアへの協力など、引き続き地域と連携した取組を進めていただきたい。

#### ＜東南部区環境市民会議での総括評価＞

ほぼ計画通りに実施できたが、省エネ・節電講座は会員の都合で実施できなかった。地域との連携した活動を心がけているが、町会・自治会活動との方向が一致しないこともあって難しい。駅周辺や川の清掃をしていると声をかけてくれる人もあり、こういった輪の広がりが街の美化にわずかずつつも貢献していると感じる。

#### ＜環境推進会議での相互評価＞

東南部地区内6駅周辺のごみの量によるきれいさ評価や、町会と連携した喫煙マナーアップキャンペーン、駅周辺や川の清掃活動を継続して実施しており、データからもきれいなまちづくりへの効果が表れていることは高く評価できる。また、小学生に向けた自然体験講座「イカダで川下り」や地域の歴史や自然を紹介する自然体験講座、市民センターまつりへの参加など地域へ向けた環境教育となっている。今後も引き続き、地域と連携した清掃活動やこれらの講座を行い、より多くの人の意識啓発につなげていただきたい。

#### ＜東部地区環境市民会議での総括評価＞

ほぼ計画どおりに実施できた。地域との連携した活動を心がけているが、町会・自治会とは活動の方向が違うので難しい。駅周辺や河川の清掃をしていると挨拶をしてくれる人がいる。すこしずつ輪を広げていくことが必要。

#### ＜環境推進会議での相互評価＞

長池公園や堀之内寺沢里山公園などでの里山保全活動や、南大沢駅前の大型花壇の維持管理など地域の様々な団体と連携して実施している活動は、良好な環境づくりへの貢献度は高いと評価できる。また、隔月に行う会員向けの学習会は活動に深みと広がりを与え、ステップアップするためのとても良い取組である。ホームページを使用した自然観察路マップや樹木マップの情報発信は、地元だけでなく広く市民に向けた環境啓発活動といえる。また、これらのマップを使用した自然体験講座を、全国都市緑化はちおうじフェアにおいて開催するなどの取組も進んでおり、引き続きご協力いただき、盛り上げていただきたい。



## 第2節 環境保全団体の活動紹介

市内には、環境市民会議をはじめ、地域で環境保全活動をしている団体等が多数あります。こうした地域に根ざした様々な活動が力となり、望ましい環境像の実現に向かっていきます。

### ■Sora

#### 1. 概要

Soraは戸吹町にある障害のある方の働く事業所です。事業内容は製パン・製菓、陶芸、農園芸、ドッグラン、雑貨づくりなど多岐にわたっており、自然豊かな環境で日々の業務に励んでいます。

活動場所は事業所の目の前にある畑や、車で数分の場所にあるキッチン等です。自分たちが作成した雑貨を販売、野菜をイチから育てて販売することにより、責任感を培ってもらいたいと考え、一所懸命に活動に取り組んでいます。



Soraの春夏野菜 勉強会

#### 2. 28年度の主な活動実績

##### (1) 農薬や化学肥料に頼らない野菜作り

事業所の隣にある畑で年明けから野菜作りを始めています。初めての試みのため、スタッフもメンバーも悪戦苦闘しながらも、日々成長していく野菜の収穫を楽しみに育てています。収穫した野菜はスーパー等で販売もしています。

##### (2) お弁当のフタを再利用したアクセサリ作り

雑貨作りの一環として、事業所で使用しているお弁当箱のフタを再利用してアクセサリの制作を行っています。お弁当箱のフタはそのままであれば捨てるものですが、付加価値の高いアクセサリに生まれ変わっています。これらのアクセサリ類は都内などのおしゃれな雑貨屋さんで販売されています。



お弁当のフタを再利用したアクセサリ作り

##### (3) 事業所前の水路の清掃・草刈り

事業所の前にはコンクリートで覆われた小さな水路があります。その水路の周りの清掃や草刈りを定期的に行って環境保全に努めています。毎年、夏には蛍が飛んでいます。多様な生物がいるなかで、少しでも住みよい環境になるように心がけて活動しています。



水路周りの草刈り作業

## ■マルベリーとちの木花づくり会

### 1. 概要

マルベリーとちの木花づくり会では、マルベリーブリッジが供用開始された平成12年度から、八王子駅北口マルベリーブリッジ上及び南口とちの木デッキ上の花壇やプランターを花やみどりで彩る、「花づくり事業」を環境保全課と協働で進めています。

北口マルベリーブリッジ及び南口とちの木デッキは、来訪者をお迎えする八王子の玄関口でもあります。駅周辺などの中心市街地を花で彩ることで、多くの方に見て楽しんでいただけるよう、これからも活動を続けていきます。



八王子駅北口マルベリーブリッジ

### 2. 28年度の主な活動実績

#### (1) 花壇及びプランターの花の植替え

28年度は、四季にあわせて年4回の花の植替えを行いました。会員で季節に合った花苗を選び、総計約4,000株の花のデザインと植え付けを行い、その維持管理のため週1回の活動をしました。

#### (2) 国際ソロプチミスト八王子との協働事業

国際ソロプチミスト八王子には、以前より花苗代やプランターの寄付など多大な支援をいただいています。

28年度には同団体認証30周年と八王子市市制100周年の協働事業として、古くなった20基のプランターを新しいものに交換してもらい、また、国際ソロプチミスト八王子認証30周年記念式典に出席させていただきました。



植替えの様子

#### (3) 全国都市緑化はちおうじフェアとの協働事業

市は29年度に市制100周年を迎え、全国都市緑化はちおうじフェアが開催されます。そこで、市民の緑化意識やフェアへの機運を高めるため、市と協働して北野衛生処理センター(北野町)で総計約4,000株の花苗の育成を行い、地域事務所などの公共施設に配布しました。